

## 通信制高校における体育の現状についての事例調査

— 保健体育教員へのインタビュー調査をもとに —

### Case Study on the Current State of Physical Education in Correspondence High Schools

— Based on Interviews with Physical Education Teachers —

体育学部体育学科  
柴山 慧  
SHIBAYAMA, Kei  
Department of Physical Education  
Faculty of Physical Education

屋久島おおぞら高等学校  
小野 賢辰  
ONO, Kenshin  
Yakushima Ozora High School

体育学部体育学科  
伊藤三千雄  
ITO, Michio  
Department of Physical Education  
Faculty of Physical Education

体育学部体育学科  
浦 佑大  
URA, Yudai  
Department of Physical Education  
Faculty of Physical Education

体育学部体育学科  
坂本 康輔  
SAKAMOTO, Kosuke  
Department of Physical Education  
Faculty of Physical Education

体育学部体育学科  
片桐 夏海  
KATAGIRI, Natsumi  
Department of Physical Education  
Faculty of Physical Education

**Abstract** : The purpose of this study was to clarify the current status of physical education classes at correspondence high schools from a case study perspective. Specifically, interviews were conducted with 2 physical education teachers who had experience working at a correspondence high school to investigate and analyze the state of their classes, the teachers' awareness, and the students' physical condition. As a result, it was found that, as in the previous study, in the target correspondence high schools, classes aimed at activities leading to lifelong sports and relationships with others were conducted with consideration for a variety of students. It can be inferred that this is a common current situation and issue in physical education classes in correspondence high schools.

**Keywords** : variety of students, lifelong sports, relationships with others

### 1. 緒言

#### 1.1. 研究の背景

令和元年5月1日現在、通信制課程を置く高等学校（以下、通信制高校と表記）の校数は全体として増加傾向にあり、通信制課程の生徒数は197,696人（高校全体の5.9%）となっている。通信制課程の生徒数も

全体として増加傾向にあるが、公立通信制高校の生徒数は減少している一方で、私立通信制高校の生徒数が大きく増加している。特に、私立通信制高校においては、日本全国に複数のサテライト施設を置いて教育活動を展開している広域通信制高校も存在し、所轄する地方公共団体の監督範囲を超えて活動する事例もしばしば見受けられるため、それらへの監督・指導が物理

的に困難な状況も生まれている（文部科学省，2020）。このように，通信制高校に在籍する生徒は増加する一方で，それらを支える教育制度は現状に追いついていないと考えられる。これは，通信制高校に関する研究についても同様であり，これまで各教科のカリキュラムマネジメントが学校ごとの判断に委ねられてきた経緯もあるため，保健体育科に着目した研究も数えるほどしかなく，その実態や課題は明確になっていない（松本・神谷，2023）。以上のことから，増加を続けていく通信制高校の教育環境を充実させていくためにも，研究による現状把握や資料の整理が必要であることは多言を要しない。

## 1.2. 関連文献の検討

一般的な通信制高校の体育とはどのようなイメージなのであろうか。インターネットで，通信制高校の体育について検索すると，通信制高校を卒業するためには体育の単位は必修であること，通信制高校の授業は主に面接指導（スクーリング）と添削指導（レポート）の2種類で体育は面接指導が大半となること，「サッカーなどの試合がない」，「ハイキングやスポーツ観戦などに振替が可能」などといった精神的な事情か肉体的に体育の授業を受けるのが困難な生徒にも配慮がなされていること，運動や体力に自信がない生徒も，休み休み自分のペースで行うことができるようになっていくことが示されている（例えば，株式会社Agoora, on line；Kashima Tsushin Kyoiku Group, on line）。

次に，秋山（2015）は，自身が勤務した公立通信制高校での体育について，以下のように述べている。通信制高校の生徒には，身体，知的，精神，発達に関する障がいを抱えた生徒や，中学時代に90日以上欠席をした生徒が多く在籍している。そのような生徒ができるだけ多く参加できる体育の授業を考える中で，「今日は軽く」という種目のもと，呼吸法や気功の授業を行っている。また，普段から運動が好きな生徒が少ないため，体調に配慮すること，入学時のアンケートや配慮が必要な生徒との面談をもとに，どのような方法で学習するのが良いかを常に検討している。具体的には，1対1で行う「取り出し」，通常の授業に参加しつつ教員が個別に補助する「入りこみ」，入学時には必要がなかった配慮が，学期途中から必要となった生徒たちを集めての「集団での取り出し」などの対応である。通信制に通う生徒の多くが，学校体育の集団性のなかで，嫌な思いや恥ずかしい思いを経験して

きた例は少なくない。そのため，上記のような個に対応した体育が必要であるが，そのような取り組みの中で，生徒の体育に対するマイナスイメージを払拭し，生涯スポーツにつなげていくことや活動を通じてコミュニケーション能力を高めることなどを意識している。

また，西村（2015）は，通信制高校の制度的特徴および生徒の実態，学習指導要領における通信制課程上の体育科の取り扱いについて，先行研究を整理し，神奈川県公立高校を事例分析した。その結果，通信制高校における体育は，制度的な制約と生徒の多様性による制約を受け，学習指導要領上の学習領域を全て実施することは難しい。そのため，現場の保健体育教員は，その葛藤を抱えながら，生徒一人ひとりの状態に即した教育実践を模索している。このような状況から，以下のように通信制高校の体育を捉え直している。通信制高校の体育は，不登校経験等の理由により健康および身体的発達が不十分な生徒にとってそれを回復させる機会，他者との関係性を回復する機会，運動技能を高めることで自己肯定感を回復する機会，社会参加への意欲と力を培う機会を与える場である。

以上のように，少ない関連文献を検討し，通信制高校の体育について概観したが，その特徴は学校制度からの面と，通う生徒の多様性によって多種多様となっていることが予想される。西村（2015）は，そこでの教育実践の収集と分析を行う必要性を指摘しているが，2015年以降，通信制高校の体育に関する研究は蓄積されているとは言い難い。

## 2. 研究の目的

本研究では，通信制高校の体育授業の現状について事例的に明らかにすることを目的とする。具体的には，通信制高校に勤務経験のある複数の保健体育教員に対して，インタビュー調査を行い，授業の様子，教員の意識，生徒の身体の状態等について調査，分析する。

## 3. 研究の方法

### 3.1. インタビュー調査

通信制高校に勤務経験のある保健体育教員を対象として，半構造化インタビュー調査を行った。調査対象としたのは，A氏（男性，30歳台，公立の通信制高校に5年間勤務）とB氏（女性，20歳台，私立の通信制

高校に2年間勤務)の2名である。インタビュー内容は、「生徒の体育授業での様子」,「生徒の身体の現状」,「配慮を要する生徒への対応」,「教員の体育授業の考え方」,「体育授業の具体的な内容」,「体育授業で生徒に特に身に付けさせたい力」,「通信制高校での体育授業の重要性」で、インタビュー時間は両名とも45分程度であった。

### 3.2. 調査データの分析方法

インタビュー調査で得られたテキストデータのうち、前述した質問内容に対する回答に対して、定性的コーディング(佐藤, 2008, p.34)<sup>1)</sup>によって、インタビューデータの分類とカテゴリー化を実施した。分類の際には、メリアム(2004)が提示した質的研究の内的妥当性を高めるための方策のうち、複数の調査者でデータの分析を行う「トライアングレーション」を採用し、体育科教育学を専門とする大学教員2名、通信制高等学校の保健体育教員1名で行った。

### 3.3. 倫理的配慮

本研究は、研究計画および調査内容、調査目的について、対象者に説明を十分に行い、研究対象からの離脱について、いつでも可能な旨を伝え、インタビュー調査の同意を得て実施した。

## 4. 結果

表1 生徒の体育授業での様子に対する回答についてのコード分類とカテゴリー化

質問内容	カテゴリー名称	コード分類
生徒の体育授業での様子	落ち着いている	落ち着いている
		人見知り
	意欲的に取り組む	単位のためにも真面目
		一生懸命取り組む
		準備と後片づけにも意欲的
	体育で友人関係を構築	体育をきっかけに友人関係が構築
	運動が苦手	運動が苦手な生徒の方が多い

表2 生徒の身体現状に対する回答についてのコード分類とカテゴリー化

質問内容	カテゴリー名称	コード分類
生徒の身体の現状	心身ともに多種多様	多種多様
		体力の格差
		心の面でも多種多様

表3 配慮を要する生徒への対応に対する回答についてのコード分類とカテゴリー化

質問内容	カテゴリー名称	コード分類
配慮を要する生徒への対応	配慮のためのコミュニケーション	コミュニケーション
		現状の確認
	配慮に沿った授業方法の検討	発言への配慮
		現状に沿った参加方法の検討
		現状に沿った配慮
		配慮のうえでの運動量
		現状に沿った配慮
	全員が楽しめる工夫	技能レベルの配慮
		運動の楽しさを感じる配慮
	安全	安全

表4 教員の体育授業への考え方に対する回答についてのコード分類とカテゴリー化

質問内容	カテゴリー名称	コード分類
教員の体育授業への考え方	全員が楽しむ	楽しさ
		達成感や楽しさ
		教員も楽しむ
	運動習慣へのきっかけづくり	運動へのきっかけ
	安全	安全
		安全
		安全
	運動量	運動量
運動量		

表5 体育授業の具体的内容に対する回答についてのコード分類とカテゴリー化

質問内容	カテゴリー名称	コード分類
体育授業の具体的な内容	体育の基本的活動	出席と課題確認
		ふりかえりの時間の設定
		準備運動
	授業場所や参加者を考慮した運動内容を検討	体育館種目
		運動量の確保
		授業場所に合わせた体育授業
		教師も参加
	コミュニケーションの場づくり	コミュニケーションの場

表6 体育授業で特に身に付けさせたい力に対する回答についてのコード分類とカテゴリー化

質問内容	カテゴリー名称	コード分類
体育授業で生徒に特に身に付けさせたい力	他者との関係づくり	コミュニケーション能力
		礼儀
		相談できる力
		協調性
	運動への意欲	運動への意欲

表7 通信制高校における体育授業の重要性に対する回答についてのコード分類とカテゴリー化

質問内容	カテゴリー名称	コード分類
通信制高校での体育授業の重要性	他者との関係づくりや意欲	色々な能力
		コミュニケーション能力
		礼儀
		協調性
	心と身体の解放	心身の柔軟性
		ストレス発散
	単位取得	単位取得

表1～7の結果より、対象とした教員が勤務した通信制高校の体育授業については、以下のことが明らかとなった。まず、体力、運動の得意や不得意、身体的や精神的な障がいや問題を抱えた多種多様な生徒が在籍しているが、単位取得のこともあり、授業では落ち着いた雰囲気、真面目且つ意欲的に取り組んでいる。そのような生徒に対して、教員は丁寧な配慮対応を行ったうえで、安全に留意しつつ、全員が運動を楽

しんで、今後の運動習慣へのきっかけづくりとする工夫を行っている。具体的には、体育の基本的活動や、使用できる授業場所や参加者を基に運動内容を検討し、併せてコミュニケーションの場づくりとなるような授業である。これらの授業を通じて、体育教員は生徒に対して、他者との関係づくりや運動への意欲に関する力を身に付けさせたいと考えている。最後に、通信制高校の体育授業の重要性として、生徒の他者との関係づくりや意欲に関する力の向上だけでなく、強張ってしまった心と身体の解放や単位取得のためなどを体育教員は考えている。

## 5. 考察

前述した結果を見る限り、今回対象とした教員が勤務した通信制高校の体育授業でも、心身の様々な障がいや課題を抱えた生徒に配慮していること、他者との関係づくりや運動の習慣化という点において、秋山(2015)や西村(2015)の、通信制高校では、多様な生徒に対して配慮したうえで、生涯スポーツにつながる活動や他者との関係性を目的とした授業が行われているとの報告と一致している。このことについては、通信制高校における体育授業の共通の現状や課題であることが推察される。

また、通信制高校の体育授業では、身体的、精神的障がいを抱えた生徒が一定数参加していることが分かったが、このような現状に対応できるよう大学における保健体育教員養成のカリキュラムにおいて、特別支援教育に関する授業科目の再検討も必要になってくることが考えられる。現状、高等学校の保健体育科教員免許を取得するにあたって、最低限必要となってくる授業科目を確認すると、教育の基礎理論の科目のうち、「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」のみとなっている(文部科学省, 2014)。今後、通信制高校の生徒数が増加していく中で、そこに勤務する保健体育教員の割合も増加していくことが考えられる以上、現状の教育の基礎理論の科目だけでなく、保健体育に特化したような特別支援教育の授業科目も必要ではないだろうか。

## 6. まとめ

本研究では、通信制高校の体育授業の現状について事例的に明らかにすることを目的とした。具体的には、通信制高校に勤務経験のある複数の保健体育教員

に対して、インタビュー調査を行い、授業の様子、教員の意識、生徒の身体の状態等について調査、分析した。その結果、先行研究と同様に、対象となった通信制高校では、多様な生徒に対して配慮したうえで、生涯スポーツにつながる活動や他者との関係性を目的とした授業が行われていることが分かった。このことについては、通信制高校における体育授業の共通の現状や課題であることが推察される。ただ、本研究は通信制高校に勤務経験のある2名の教員のみを対象としたものであり、その教員経験も短いものであることから、今後は対象人数を増やすことや、教員経験が長い対象への調査が必要である。

## 脚注

### 1) 定性的コーディング

収集された文字テキストデータに対して、「コード」という、それぞれの部分を含む内容を示す小見出しをつけていく作業を行う。その後、同じテーマのコードを分類する。これによって、「現場の言葉」の意味を理解し、それを理論の言葉に置き換え、対象の基本的なテーマである概念的カテゴリーを浮かび上がらせることができる（佐藤，2008）

## 引用文献

- 秋山定好（2015）通信制高校での体育の実践。ねざす。No.56, 2015年11月号：<http://www.edu-kana.com/kenkyu/nezasu/no56/tokusyuu2-akiyama.html>（2024年8月21日参照）。
- 株式会社Agoora（on line）通信制高校広場：通信制高校に体育の授業はある、ない？服装や授業内容まで徹底紹介。<https://www.eulerarchive.com/schoolsystem/physicaleducation.html>（2023年10月12日参照）。
- Kashima Tsushin Kyoiku Group（on line）通信制高校で体育はどう学ぶ？。<https://www.kg-school.net/gakuen/campus/meguro/blog.html?id=14118>（2023年10月12日参照）。
- 松本悠・神谷拓（2023）通信制高校の保健体育科に関わる制度と研究の動向－添削指導と面接指導の取り扱いに着目して－。日本体育・スポーツ・健康学会第73回大会プログラム：p.585。
- メリアム：掘薫夫・久保真人・成島美弥訳（2004）質的調査法入門：教育における調査法とケース・スタディ。ミネルヴァ書房。
- 文部科学省（2020）高等学校通信教育の現状について。[https://www.mext.go.jp/kaigisiryo/content/20200114-mxt\\_koukou02-000004042\\_4.pdf](https://www.mext.go.jp/kaigisiryo/content/20200114-mxt_koukou02-000004042_4.pdf)（2023年10月11日参照）。
- 文部科学省（2014）教員免許状取得に係る必要単位数等の概要。[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/002/siryo/\\_icsFiles/afiel\\_dfile/2014/04/23/1347091\\_03.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/002/siryo/_icsFiles/afiel_dfile/2014/04/23/1347091_03.pdf)（2024年8月27日参照）。
- 西村貴之（2015）通信制高校の制度および生徒の多様性をふまえたカリキュラムのあり方の検討－体育科教育に着目して－。北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター年報，第6号：pp.103-114。
- 佐藤郁哉（2008）質的データ分析方法。新曜社。